

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一15:20～28 「初穂としてのキリスト」

[20]「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました」初穂とは畑の収穫として刈入れをした穀物の最初の束のこと。そのようにキリストは、すべて眠った者（死んだ者）の初穂として先頭を切って死よりよみがえられた。キリストの復活こそはコリント教会の一部の者たちが疑いを抱いていた死者の復活の先駆けであった。

[21-22]「というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです」

22節は21節の解説である。最初のひとりの人とは人類の始祖アダムのこと。彼が神がたった一つの取ってはならないと禁じられた木の実を取って食べたことによって、死が全人類に入ってきた。すべての人間を代表するアダムは神が定めた従順のテストに失敗した。それゆえ、その戒めを破ったことに伴う神の罰、死がアダムに、そして彼の子孫である全人類に入り、世界は呪われたものとなったのである。→創世記2～3章

二番目のひとりの人とはイエス・キリストのこと。神はそのひとり子キリストを人類の罪の贖いのために罪のない人としてこの世に送られた。彼は人としてこの地上を歩まれ、救いの福音を宣べ伝え、最後に十字架につけられて死なれた。しかし、それは私たち人間の罪の贖いのための死であった。誰でもこのイエス・キリストを自分の罪の贖い主、救い主と信じ受け入れる者は救われる。アダムにあってすべての者が死すべき者、死んでいる者となったが、今やキリストによって彼を信じるすべての者が生かされる（死者の中から復活する）ようになったのである。

[23]「しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です」

ここで復活の順番が説明されている。キリストは死者の中から初穂としてよみがえられた。そしてその次にキリストが再臨されるとき（この地上にさばき主として来られるとき）キリストを救い主として死んでいった者たちがよみがえる。→Iテサロ4:13～18

[24-25]「それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです」

キリスト再臨のときのクリスチャンの復活に続いて、それから終わりが来る。これは世の終わりのこと。その時、神以外のものによって立つあらゆる支配、権威、権力がキリストによって滅ぼされる。このようにしてキリストは最終的なみわざを終えられ、すべてを父なる神にお渡しになる。なぜならキリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまでと定められているからである。→詩篇110:1

[26-27a]「最後の敵である死も滅ぼされます。『彼は万物をその足の下に従わせた』からです」

27 a は詩篇8:6からの引用。

死こそ人類最大、最後の敵である。しかし、世の終わりの時にはその最後の敵である死も完全に滅ぼされる。→黙示録20:14、21:3～4

[27b-28]「ところで、万物が従わせられた、というとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです」

「御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます」とは父、御子、御霊の三位一体の神に優劣があるというのではなく、御子キリストが救い主としての職務上、一時的にとられる姿であり、救い主として御子キリストはすべてを父なる神にお渡しになって従われ、そして神がすべてにおいてすべてとなられ永遠に全被造物を統治されるのである。

死者からの初穂としてよみがえられたイエス・キリストを救い主と信じる信仰者は、やがて自分たちも主にあって復活させられるその日を待ち望みつつ、毎日の信仰生活に励まなければならない。